

7月22日(土)「夏休み宿題お助け広場」の様子(厚生会館にて)

やま

福島県公立学校退職校長会耶麻支部
広 報
 発行日 令和6年2月29日
 発行者 支部長 菅井 一良

巻頭言 令和6年以降も笑顔で . . .

副支部長 猪 俣 薫



私が暇そうに見えたからではないのですが、退職後、社会福祉協議会や人権擁護委員協議会、町内会等々から役職をいただきました。この間、現役時の重圧から解放されたという感覚もあって、校長時代よりも忙しいのではないかと錯覚するときもありました。そんな私も古稀を境に徐々に役職を削り始めたお陰で、この4月からは大分時間に余裕ができそうです。

現在、私は退職校長会耶麻支部の親睦会である囲碁クラブとグラウンドゴルフクラブに入会しており、頭脳と体力並びに集中力の鍛錬(ちょっと大げさですかね?)を図りながら、毎回楽しんでます。またクイズが大好きで、クイズ誌等を購入して応募して景品をゲットするなど、趣味と実益(掃除機やブランドのネクタイが当たったこともあります)を兼ねています。

これは初めてお話しするのですが、私は退職後、時間に余裕ができたなら『小説』を書こうと考えていました。なんとまあ大胆な、とお笑いくださるな。小説家と称する方々は口々に「小説は、先ず書き始めることです。」と話されてます。私だって、と考えても不思議はありません。退職直後に最初の1ページ程度は既にパソコンに入力しましたし、構想も私の頭の中にあります。(とはいっても書き上げるにはまだまだという認識はあります。)

小説への挑戦にとどまらず、私はこれからもいろいろな分野に楽しみを見つけていくつもりです。ああそうそう、結婚以来迷惑をかけ続けた『母ちゃん孝行』も忘れてはいけませんね。

『余生』という言葉パソコンで調べました。『盛りの時期を過ぎた残りの生涯』なのだそうです。私を含め、各学校のトップとしてそれぞれの時代の教育界のニーズに対応して尽力されてきた皆さんの活動は称賛されるべきことに間違いはありませんが、それで盛りの時期を過ぎたと断じるのは早計と言えます。

今までの皆さんの活躍に対して「お疲れさま、そしてご苦労さまでした。」と最大の賛辞を贈らせていただきますとともに、これ以降が余生では決してないということを重ねて強調させていただきます。皆さんの周りで新たなる盛りを見つけていただき、令和6年以降も笑顔でお過ごしいただけるようお願いしております。

生涯部活動報告

生涯部長 佐藤めぐみ

4年ぶりに「教育懇談会」開催！

現職・退職校長47名が一堂に会しました。会員・関係各位のご支援、ご協力に感謝申し上げます。

- 1 期日 8月23日(水) 15:00~16:30
- 2 会場 喜多方市立第二小学校
- 3 内容 ○講話「タブレットを活用した学びのあり方」※VTR資料活用
講師 喜二小教頭 目黒洋光氏
○小グループ懇談

4 アンケート結果より(5段階評価)

① 講話の評価 平均4.44

現職は「自校の取り組みの参考になった」という感想が多数。ICT教育は、どの学校も大きな課題の一つなので、参考になったようです。退職者は、最近の学びの様子が分かり、刺激を受けたとのこと。

参加者の質問や意見、感想を聞く時間が取れば良かったと思います。2年越しの依頼に応えてくださった講師の目黒先生、有難うございました。

講話を聴く現職・退職校長



② グループ懇談の評価 平均4.42

現職・退職者ともに「時間不足」の声が多数。計画より更に短い時間となり、久々の顔合わせを楽しみにしていた会員には申し訳ないことでした。現職者からは「短時間でも有意義だった」と懇談に前向きな記述が多く、

学校経営に生かしたいという思いが感じられました。

今後の教育懇談会の形は、参加者の8割を超える方々から「講演(教育の今日的課題)と懇談」が良いと示されました。皆様のご意見・ご要望を踏まえ、実りある教育懇談会の継続に努めます。

5 終わりに

感染リスク回避のため、会場設営や校内TV放送の活用等、多くのご配慮をくださった喜多方二小校長先生・職員の皆様に心より御礼を申し上げます。

生活部活動報告

生活部長 鈴木 隆

コロナの影響で活動を見送る状況が続きましたが、令和5年度は久々に「研修旅行」と「一年の健康を祝う会」の両活動を実施することができました。ご理解とご協力の下さいました会員の皆様に感謝申し上げます。

1 研修旅行

10月11日(水)に柳津方面に13名で研修旅行に出かけてきました。今回のテーマは身近な小旅行ということで、齋藤清美術館見学と旅館かわちで食事とお風呂を体験してきました。移動が短くゆったりとした時間を過ごすことができました。



参加者集合写真



庭を眺めて
の～んびり

2 一年の健康を祝う会

11月25日(土)に新丁子屋にて18名の出席者を得て、一年の健康を祝う会を開催いたしました。



参加者集合写真

菅井一良支部長と佐藤定男氏による謡曲で新入会員をお祝いし、近況報告をそれぞれが行い、歓談しました。昔話、健康、最近の生活など話が尽きない楽しい会となりました。

宴もたけなわ



令和6年度も会員の親睦と研修という本来の目標実現のために魅力ある活動を提案し、実現できるよう努力して参りますので皆様のご協力、ご賛同をよろしくお願い致します。

クラブ活動報告

囲碁クラブ

代表 猪俣 薫

令和5年度、9名でスタートした囲碁クラブですが、今後1名減となることが予想されます。そこで、支部会員の皆さんに知っていただきたいニュースをご報告するとともに新たな入会者の勧誘を訴えたいと思います。

昨年6月に入会したばかりの長谷川良三先生が、1年後の6月定例会で見事『初優勝』されました。おめでとうございます！

長谷川先生は幼い頃に碁を習ったのみとのこと。入会後の努力の賜物といえますが、碁は『置き碁制度』があり、初心者も高段者も対等に楽しめる娯楽です。会員には指導の達人もおり、『碁』のルールをまだご存じない方にも懇切丁寧にお教えします。

松風の『特色のあるクラブ活動』で紹介しましたように、我がクラブは最低が初段。入会して即初段になり遠慮のない笑顔の会話を楽しんでみませんか？

例会は毎月第1木曜日、喜多方市厚生会館で開催します。昨年から椅子対局となり、膝に負担を抱えている私も碁に集中でき、メッチャ楽しんでます。金子杯優勝齋藤敬一先生



例会での対局の様子



グラウンドゴルフクラブ

代表 佐藤 定男

例年、冬季は校庭が使用できず旧岩月中学校講堂で、12mのコース2本と20mのコース6本の計8コースを設定し、会員13名(校長会3名が会員)が毎週月・水に活動している。

平日の8コース2巡のスコアは40台が多い。スタート前の雑談では「今日はホールインワン出したい。」とか「30台に伸ばしたい。」など希望の声が聞こえてくる。ところが、何と新年早々驚くべき記録が出た。ホールインワン3回、そのスコアが何と28。この記録者は津川紀雄さん。3度ほどゴールポストにボールが当たりはじかれることもあったが、ゴールに向かって一直線に転がっている。よく見るとスタートでしっかり集中し、パットの「強弱」と「方向判断」が的確であることが分かる。真似をしたくともそのパットの振り方は難しい。周りのクラブ員からは「うまいな～」のため息ばかりだ。

藤 宝 会

代表 菅井 一良

◎今年度も毎月第二金曜日に、佐藤定男氏宅にて宝生流小謡本を中心に実施

◎毎月第三水曜日は岩月公民館謡曲教室参加

◎喜多方宝生流連合会秋季謡曲大会の鑑賞

伝統文化に親しみながら、継承の一端を担っていただけるとの思いで活動しています。

昨年、琵琶の弾き語りによる平家物語と能楽師による鼓の演奏に接する機会がありました。演者の話で気になった事ですが、人・物全ての面で文化伝承が危うくなっているというのです。例えば『鼓』の材質でも、今やメイドインジャパンではなく、端を結ぶ小紐というロープでさえも海外に依存しているという。本来は麻糸を使用するが、今では合成繊維で染色も化学染料だそうです。確かに古来

の物と比べても、素人感覚ですが、手触りや色合いに確かな違いが認められました。日本古来の文化を受け継いでいく事の難しさと、その意義を改めて考えさせられました。

大人の遠足クラブ

代表 大堀 浄一

退職すると時が経つ程に籠りがちになるが、少しでも戸外で自然に親しみ、人に触れ合う機会を持ちたい。そんな思いを持ちながらも事前準備もなくクラブを立上げたため、何をするにも日程等の調整が欠かせなかった。それでも下記のような活動を実施できた。

○5月31日 新クラブ相談会

○6月21日 濁川河川敷散策

舞台田橋から上三宮橋までダベリングを楽しみ、川筋の自然を鑑賞しながら散策。

○7月22日 映画観賞会

○10月29日 バス遠足

奥只見(銀山)湖遊覧船上から紅葉した山々の風景を鑑賞。さらに、750mトンネル先の柱状節理からなる清津峽を見学した。



外輪遊覧船

○12月8日 反省会・次年度の計画立て
数少ない活動から、多くの反省を得た。次年度は反省を生かしより充実したものになりたい。

おめでとうございます

賀寿(95歳) 羽曾部 實 様宅訪問

受賞のお喜びの話の中からいくつかご紹介します。

○ 思い出に残る学校は南会津の只見中学校



で、只見高校の校長先生が会津出身の校長先生だったので町内3校の校長で話し合い、「できるだけ地元の高校へ生徒を送ろう。」と生徒をたくさん送り感謝された。また、地元の人々の厚い人情味にも触れ感激した。

- 心に残る出来事は、教職員の人事関係で苦勞した事。「先生方を泣かせてはならない、支えて行かなくてはならない。」という思いで関係者と激論したが、心を込めてやれば分かってもらえることを痛感したし、繋がりを持つことも大切であると思った。
- 今後の楽しみは、身体を動かさないとだめだと思い、畑と仲良くなり毎日を楽しんでいる。親しい友達がなくなるのはさびしいが、今後も妻と支え合って生きて行こうと考えている。

賀寿受賞、本当におめでとうございました。
(文責 阿部充也)

賀詞受賞者（小荒井 實様）訪問

日課である散歩帰りの先生に、賀詞をお届けしました。第一小学校で一緒させて頂いた頃の様子と併せてご紹介致します。



- かつて雄国や飯豊山を我が庭のように歩き、四季の美しさ、名前や由来、民俗学的視点からの解釈等、その素晴らしさを多くの方々に伝えて戴いた事は周知の事実です。
- 会津の山や花について十数冊もの本も執筆されました。特に「飯豊山 山と花」は福島民報社出版文化賞を受賞されました。下郷の「風穴」や猪苗代の「しぶき氷」等

の発見は、観光資源発掘に多大な貢献となりました。

- 実験の準備は、児童自ら素早くできる事を目標にし、その環境整備の取り組みは「理科室経営のアイデア」として纏められました。後に先生の専門は社会科だと知り驚きました。
- 現天皇陛下が皇太子時代、裏磐梯を散策されました。「ササどうぞ」と水を飲もうとしていた雅子妃に、笹で作った器を差し出した話は語り草となっています。

(文責 菅井一良)

行事参加報告

夏休みお助け広場に参加して

西村 新六

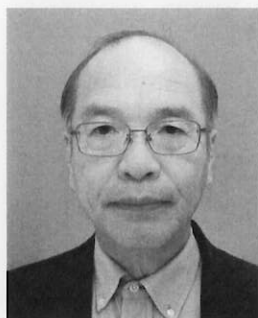
令和5年7月21日(金)厚生会館ホールを会場に実施。本会から大堀浄一、小林一裕、吉田佳正、猪俣薫(敬称略)と小生、他に喜多方イーゼル会、Coder Dojo 喜多方が参加。数年前までは夏休みの課題帳の学習だけでなく、科学的体験活動(万華鏡作りやスライム作り等、学校では体験できない活動)を取り入れたりもしていた。そのためには事前の準備会を行ったり苦勞もあつたが、子供達は喜んでくれた。近年は課題帳の学習が主なため物足りなさを感じていた。

物置小屋に水晶や紫水晶、オパール、黄鉄鉱等色々な鉱物や化石がある。退職して二十数年間、県内各地で採集した標本である。子供達に鉱物標本作りの体験をさせようか。薄皮饅頭を戴く度に捨てずに置いた空箱もある。勉強で疲れた子供達を誘って鉱物標本作りを体験させた。好みの鉱物を箱に並べ、ラベルをつけ、手作りの鉱物標本が完成。子供達も喜んで持ち帰って行った。

日々是好日

桜梅桃李

田代 義秀



大切な思い出と共に学校を去ってから、早いもので8年が過ぎます。あの時は妻が闘病中で、これからは苦勞をかけた妻と楽しい思い出を作ることを楽しみにしていました。ところが退職

後1年が過ぎる頃に地元の公民館長のお話があり、妻とも相談して引き受けることになり、この3月で7年になります。妻は4年間の闘病生活を経て5年前に逝去しましたが、あの日から私は、病気に負けず笑顔を絶やすことのなかった妻、34年間苦樂を共にしながら一緒に歩んできた妻と常に一緒に生きて、時には勇気をもらい、励ましてもらい、守ってもらいながら生活しています。

「桜梅桃李」、私の大好きな言葉の一つです。桜は桜、梅は梅、桃は桃、李は李。咲く時期も形もさまざまですが、精一杯生き切って自分の役割を果たしています。他の人のことを羨ましく思う心が時々顔を出すことがありますが、早く咲く人、ゆっくり咲く人、違いはあっても、自分自身の幸福の花を必ず咲かせていけるということを信じながら大切な自分の人生を総仕上げしていこうと思っています。

4年ぶりの〇〇会

渡部 博之

〇〇会とは？、30数年前駅伝競走部の顧問をしていた頃に出会った教え子達9名との盆・正月の年2回「ひろゆきを囲む会」と称する集会のことです。地元在住のメンバーが交代で幹事となり、会の設定をしてくれます。

今回は4年ぶりに1月3日に開催、7名が集まり遠くは静岡から掛けつけてくれました。

わくわくしながら顔を出すと「先生全然変わってない、もうちょっとおじいちゃんになっているかと思った」の第一声。お世辞でもとても嬉しい気分になりました。

一人一人近況報告した後の話題は、決まって当時の厳しかった(?)練習のことや合宿での出来事のこと。「あんなこともあった、こんなこともあった」と思い出話は尽きることなく大盛り上がりでした。2時間飲み放題の時間はあっという間に過ぎ、夏にまた会うことを約束し閉会となりました。

いつも元気を貰える〇〇会、毎回参加できるように日々、健康と若さ(?)の維持に努めていきたいと思います。



ダブルスクール時代

須田 敬

今年も1月13・14日大学入試の前哨戦「共通テスト」が実施された。「共通一次テスト」に比して、今の共通テストでは思考力判断力を測る設問が大部分を占め、リード文や資料を確かに読解、その上で思考力考察力を問う設問が大半となった。この共通テストに対し高校3年間の授業は教科書を終えることで精一杯で補習等をもって対応するのは困難のようだ。

この十数年来衛星放送技術の発達拡充により、中央のハイレベルの講義を受けられるようになった。ダブルスクール時代の到来、能力ある者は全国レベルで切磋琢磨し合格の栄冠も身近なものとなった。教師と生徒の関係が強制的になれば、生徒によっては「内職」時間となる。この現実には教師は悩む。しかし生徒の中には教師以上の能力を持つ者がいる程度であることを忘れてはならない。それらの

生徒の能力を認め、授業の中でアシスタント的に活用する等、さらに共通テスト・入試問題を適切に教材化を図り、授業の中に採り入れ、毎日の授業が共通テスト・入試問題と深く関連があることを認識させることこそダブルスクール時代の授業である。

教育の現場から

地域と共に高め合う学校を目指して 喜多方市立第一中学校長 板橋 和典

令和6年は、能登半島地震や羽田空港での航空機衝突事故等、衝撃的な出来事が相次ぐ幕開けとなりました。この度の震災において犠牲となられた皆様に対し深く哀悼の意を表し、被災された多くの方々に心よりお見舞い申し上げます。そして、未だに再開できない多くの学校の事を考えると心が痛みます。

さて、この度は、貴広報に執筆する機会を頂きまして誠にありがとうございます。本校教育活動の一端を紹介させていただきます。教育目標に「地域と連携し地域に貢献する生徒の育成」を掲げ、地域に根差した様々な活動を行っています。コミュニティスクールの力をお借りしながら、子供達を地域の中に関わらせ、そして地域の方々を学校に巻き込んで「学校と地域が共に高め合う」WinWinの関係性を築ける様に取り組んでいます。その中で東日本大震災10年目を迎えた令和2年から「防災・減災教育」の一環として「地域合同避難訓練」に取り組んでいます。4年目の今年度は、総勢10団体の多くの方々の協力を頂きながら、実際に避難所設営等を行うことで、子供達は「地域の一員として自分には何ができるのか?」について考えることに繋がりました。これまで地域の方から「学校は敷居が高い」「協力したいけど、どうしていいかわからない」等の意見が寄せられました。しかし、「地域合同避難訓練」の取り組みは、地域の方が学校に関わるきっかけとなり

「開かれた学校づくり」にも繋がりました。



地域の方々と簡易テント組み立て

この他にも、地域の伝統文化の継承のため、慶徳御田植祭や市内各地区の祭り囃子への参加要請に答えて、多くの子供達が意欲的に活動に参加しています。学校が子供達と地域を繋ぐことにより「地域の願いに応える学校」の実現に向けて取り組んでいます。

ぜひ、本校のホームページもご覧ください。
※[<https://kitakata.fcs.ed.jp/> / 第一中学校]で検索

県教育委員会公式noteに紹介されました。
※[いつも心に「真・善・美」 喜多方市立第一中学校]で検索

事務局だより

- 昨年4月に県公立学校退職校長会より「トルコ大地震」への義援金の呼びかけがあり、本会会計より一万円を供出しました。県内各支部から集まった義援金は、県会長が1日も早い復旧・復興の願いと共にトルコ大使館へ届けました。
- 昨年10月に耶麻三市町村長・教育長への要望活動を行いました。要望とともに、それぞれの教育長から直接お話を伺うことができました。少子化や教員不足等の現状を踏まえながら、地域の特色を生かした教育活動に日々尽力されていることを感じま

した。

- 昨年11月に退職校長会会津連絡会が3年ぶりに南会津町の御蔵入交流館で開催されました。令和7年度の県公立学校退職校長会会津大会（南会津）について協議しました。
- 来年度より定年引き上げが始まることを踏まえ、会則（組織）改正について県本部の評議員会で検討し決議されました。来年度より会員に満60歳の「役職（校長）定年者」を加えることとなります。
- 来年度の耶麻支部総会・懇親会は、4月13日（土）午後より喜多方市内「新丁子屋」で開催する予定です。後日、正式な案内をお送りします。

（文責 神田 優子）

《 編 集 後 記 》

広報部長 吉田 佳正

今年度は、コロナの5類移行に始まり、沸騰化とまで表現されるようになった地球の温暖化により猛暑の夏・短い秋を経て、積雪もあまり見る事のない暖冬となっていますが、会員の皆様には、お変わりなくお過ごしのことと思います。ここに、会報「やま」をお届けすることができ、広報部といたしましても一安心しているところです。

前の会報でも触れた誌面作りの変更については、順調に推移しており、今回は「事務局だより」のコーナーを新たに設けることができました。必要な工夫・改善は、今後とも継続していきたいと思っております。

ところで、今回の会報作りでは、当初6ページ立での作成を予定していましたが、指定の文字数を若干上回る原稿が多く、7ページ

分になってしまいました。偶数ページでない
と白紙のページが残りますが、ご協力いた
だいた原稿の一部を削除するのは大変心
が痛むので非常に行い難く、写真等を
活用することで8ページ立に収める
ことができました。

年末・年始のお忙しい中、原稿を執筆
してくださいました方々には、この場
をお借りして心から御礼申し上げます
と共に、今後とも原稿作成依頼が
届きました折にはご協力をお願いいた
します。

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～

身近にあった話題を2つ紹介します。

1 猛暑に咲き誇ったアジサイ



毎年、我が家の池の傍（比較的寒冷な場所）
で細々と生きてきたアジサイが、今年は大
いに繁茂しました。温暖化の進行を感
じる変化です。

2 ザルギクの町づくり



最近、あちこちで見かけるようになった
畑一面のザルギクですが、我が家の近
くにも立派に咲いていました。「ザル
ギクの町づくり」を進めるという話
も出ています。